

御木本製薬株式会社（三重県）

～研究成果の特許が会社を守る～

1. 独自の視点と技術力で医薬品レベルの高品質なミキモト化粧品を開発

ミキモトと言えば宝飾品としての真珠で有名であるが、実は戦時中に奢侈禁止令が出され宝飾品は作れない時代があった。そこで創業者である「御木本幸吉」は“真珠を飲むと不老長寿を保ち、美と健康にかがやく”という中国に伝わる漢方思想に注目、昭和18年会社を設立。その後研究を重ね「真珠カルシウム」の製造に成功し、1949（昭和24）年には医薬品「パールカルク」の製造販売を開始した。現在は化粧品を中心に製造販売を行っている。また、関連企業として、株式会社ミキモト、株式会社御木本真珠島、台湾現地法人台湾御木本化粧品股__有限公司を設立し、国際的発展を目指している。

2. 安全性の追求、さらに有効な成分を求めて

もともと医薬品からスタートしたこともあり、独自の研究機関を持っているのがミキモト化粧品の特徴といえる。研究開発部門には約40名のスタッフがあり、有効性の研究の他、安全性の追求を目標に細胞レベルでの安全性向上のための専門部署も設置している。昭和57年当時としては数少ない無香料、無着色の基礎化粧品を発売、その後ベースとなる水にもこだわり、超純水を全製品に使用し安全性重視の姿勢を貫いている。真珠成分に関する研究は数校の大学の研究室との共同研究を行い、真珠の母貝であるアコヤ貝にはじまり、漢方薬に代表される植物即ち生薬などの有効成分の研究に力を注いでいる。また、製剤技術の開発にも力を入れ、界面活性剤を使用しない、独自の乳化技術の開発に世界で始めて成功し、実用化している。

3. 経営戦略としての特許戦略

工業所有権法をよく知らずに申請前に起こした行動により、権利を取得できなかった苦い経験がある。化粧品種別配合成分規格の掲載申請を行ったことで、権利が取得できず他社に原料の製造販売されてしまったり、学会発表が先行して、権利取得の妨げとなったこともあった。こういった経験から、研究開発部門に専任の知的所有権担当者をおき、化粧品の原料の製法、化粧品そのものの製法などで数多くの特許出願をした。権利化することにより、経営の安定化にも貢献しており、現在全社員が全力を注いで取り組んでいるところである。その結果、現在では化粧品や健康食品の製品の95%が特許出願中か、特許権を保有している。

また、海外へはアメリカ、台湾、韓国などに出願し、アメリカで2件の特許権を取得している。内容的には界面活性剤を使用しない化粧品の製造方法、沼に生えている植物「ヒシ」よりの原料抽出方法、遺伝子配列（バイオ）などである。

その他、特許出願した対象品の中で、完成品である化粧品の販売だけでなく、他社からの原料供給の要請も増え、新しい事業としての可能性も出てきている。中でも保水性を持ったコレステロールの入った液晶化粧品は、現在韓国で人気があり海外進出の一助になっている。特に、平成13年4月から法律により、化粧品容器の表面にその成分の表示が義務づけられた現在、配合成分が明白になり、他社が容易にコピー商品の製造販売

ができる状況となる。こういう弊害を防止し、自己防衛する意味からも、今後より一層の特許取得に全力を注いで行こうとしている。

4. 環境ホルモンを考慮した新原料探索への挑戦

従来、化粧品の原料抽出の対象物は主に陸上の草などの生薬が多かったが、より一層の安全性の向上を図るべく、木材の樹皮からの成分抽出について、現在大学と共同研究中である。近い将来、海草などの海中植物からの有効成分の抽出方法の開発などを進めていく計画がある。今後、無限に近いであろう海中資源の活用、利用が迅速に発展するものと期待される。

【特許活用製品】



パールカルク



パールカルク原末製造プラント



工場内部（クリーンルーム）



スペクトロフォトメーター



スプレードライ

●会社概要

代表者：代表取締役社長 小泉 義夫

所在地：三重県伊勢市黒瀬町1425番地

設立：1943（昭和18）年

資本金：9000万円

従業員：215名

事業内容：化粧品、医薬品、工業薬品、栄養食品の製造販売